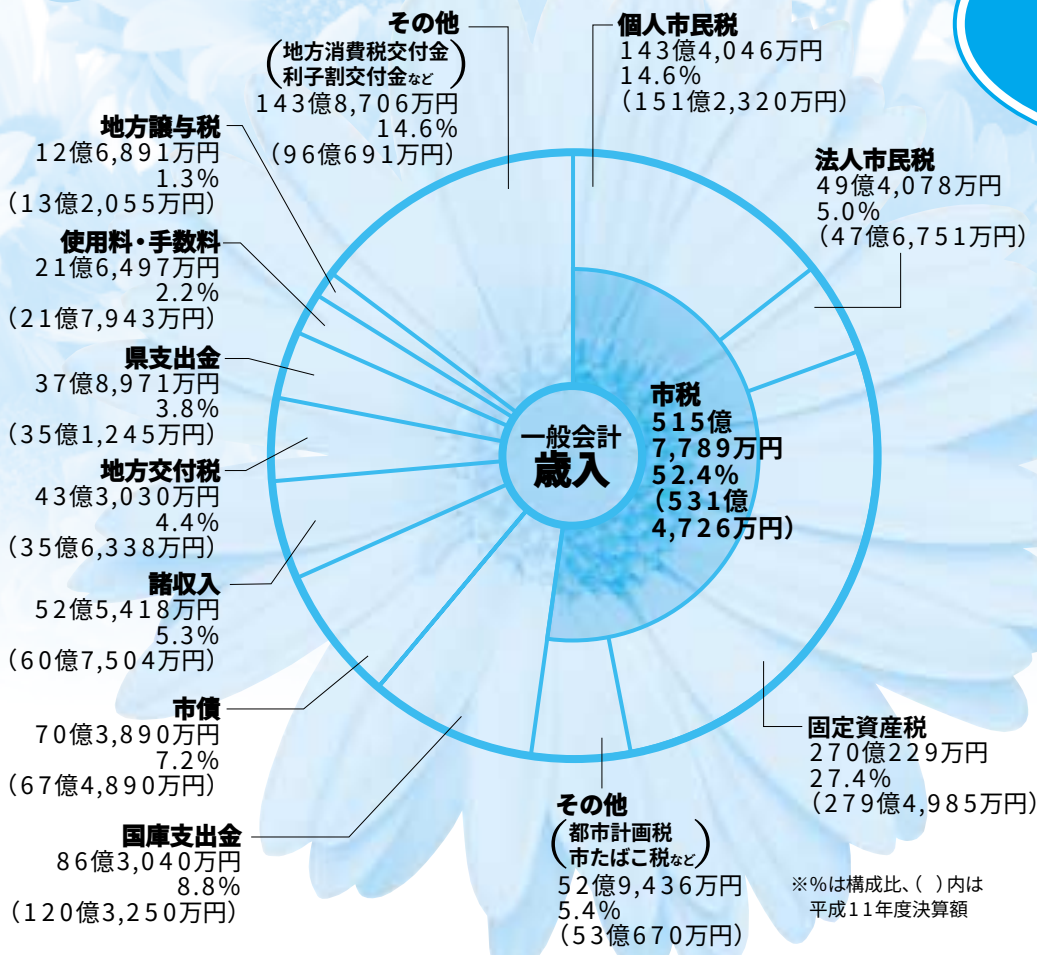


一般会計・歳入

984億4,231万円(対前年度比 0.3%増)



平成12年度 決算

歳入・歳出とも3%増

平成十二年度の一般会計・特別会計・財産区の決算がまとまり、十月一日から開かれた市議会臨時会で認定されました。本号では、その決算の概要をお知らせします。(四・五ページでは、決算から市財政の体力を測ってみました)

歳入1,821億1,867万円

歳出1,765億 595万円<実質収支額は50億49万円>

一般会計・特別会計・財産区を合わせた平成十二年度決算の総額は、歳入が千八百二十一億千八百六十七万円(対前年度比三・〇%増)、歳出が千七百六十五億五千九百九十五万円(同三・〇%増)です。その差額五十六億二千二百七十三万円を差し引いた五十億四十九万円が実質収支額で、前年度と比べて八百五十六万円の減となっています。

市民の生活に関係が深い一般会計の決算は、歳入が九百八十四億四千二百三十一万円(同〇・三%増)、歳出が九百五十九億八千七百五十一万円(同〇・六%増)です。実質収支額は、歳入と歳出の差額から平成十三年度への繰越財源額四億六千六百九十三万円を差し引いた十九億八千七百八十八万円です。

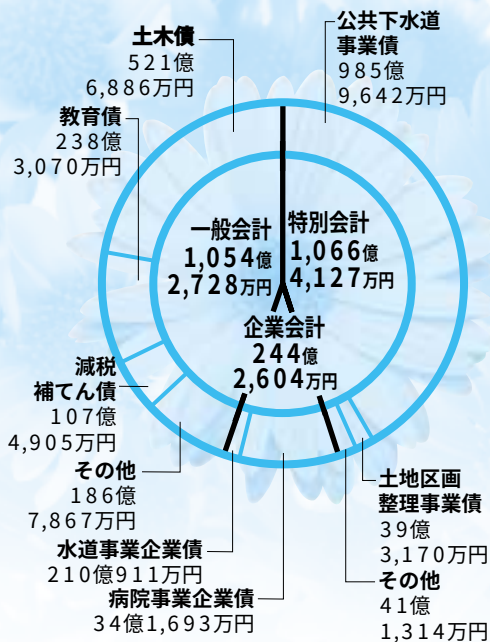
一般会計では、歳入のうち市税収入は法人市民税が対前年度比三・六%増加したものの、個人市民税が同五・二%減、固定資産税が同三・四%減となり、市税全体では同三・〇%減となりました。国庫支出金は対前年度比二八・三%減少したものの、地方交付税が同二一・五%増、県支出金が同七・九%増となるなど、財源の確保に努めたことで、歳入全体では同〇・三%増となりました。

また、歳出については、介護保険特別会計の設置により民生費が対前年度比一八・四%減となったものの、公債費が同二・八%増となるなど、歳出全体で同〇・六%増となりました。

市債の状況

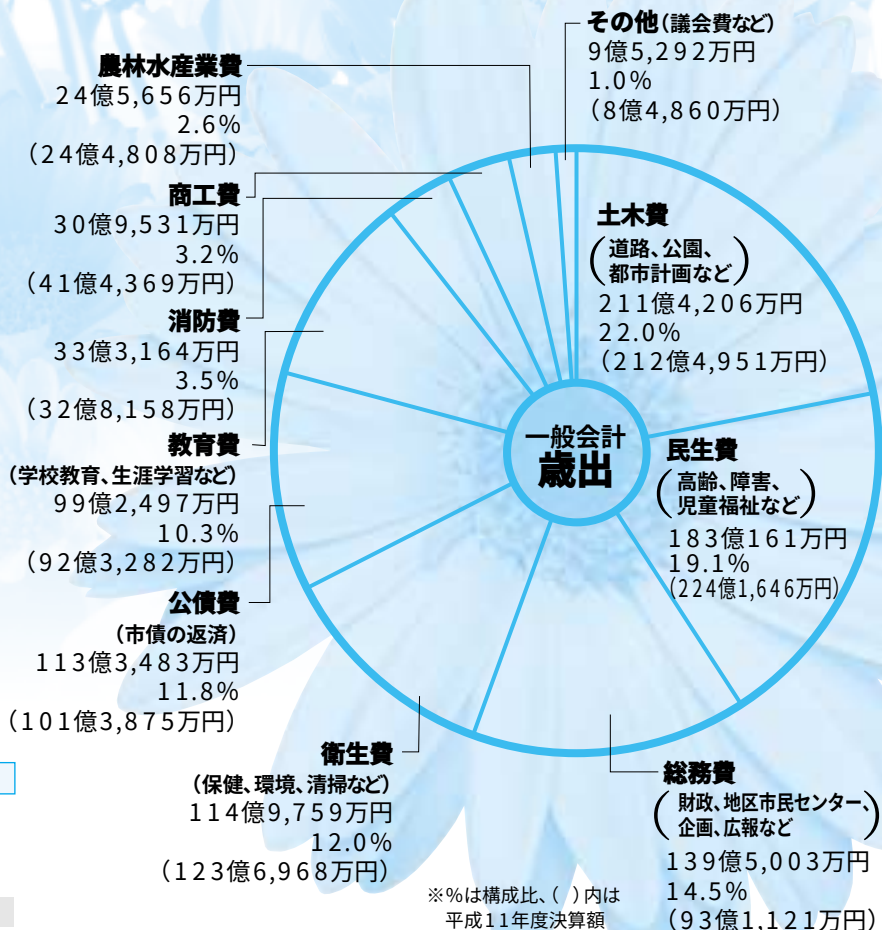
(平成12年度末残高)

総額／2,364億9,458万円



一般会計・歳出

959億8,751万円 (対前年度比 0.6%増)



【公営企業会計】

病院事業

入院患者1日平均 520人
外来患者1日平均 1,998人 (平成12年度実績)

●収益的収入および支出

(区分)	(決算額)
収入(病院事業収益)	147億 495万円
支出(病院事業費用)	146億4,791万円
収支差引	5,704万円

●資本的収入および支出

(区分)	(決算額)
収入(資本的収入)	12億5,031万円
支出(資本的支出)	17億8,722万円
収支差引	△5億3,691万円

※決算額には消費税が含まれています。

水道事業

給水戸数 120,279戸
年間配水量 4,507万立方メートル (平成12年度実績)

●収益的収入および支出

(区分)	(決算額)
収入(水道事業収益)	96億6,997万円
支出(水道事業費用)	90億9,093万円
収支差引	5億7,904万円

●資本的収入および支出

(区分)	(決算額)
収入(資本的収入)	13億 327万円
支出(資本的支出)	26億8,565万円
収支差引	△13億8,238万円

※決算額には消費税が含まれています。

【特別会計・財産区】

(区分)	(歳入)	(歳出)	(歳入歳出差引)
●特別会計合計	836億4,122万円	805億1,414万円	31億2,708万円
競輪事業	176億3,800万円	167億3,214万円	9億 586万円
国民健康保険	171億5,351万円	167億3,118万円	4億2,233万円
食肉センター食肉市場	8億3,399万円	8億2,062万円	1,337万円
公共下水道	172億3,377万円	170億6,150万円	1億7,227万円
土地区画整理事業	14億6,837万円	13億8,049万円	8,788万円
交通災害共済事業	1億9,125万円	5,372万円	1億3,754万円
市営駐車場	1億7,369万円	1億7,369万円	0
福祉資金貸付事業	1億3,086万円	229万円	1億2,857万円
住宅新築資金等貸付事業	1億 801万円	1億 372万円	429万円
老人保健医療	198億7,461万円	191億8,932万円	6億8,529万円
公共用地取得事業	3,156万円	3,156万円	0
農業集落排水事業	6億3,288万円	6億 95万円	3,193万円
介護保険	81億7,072万円	76億3,296万円	5億3,776万円
●桜財産区	3,513万円	430万円	3,083万円

◎金額は、すべて表示単位未満を四捨五入しており、合計と合わない場合があります。また、構成比は表示単位未満を四捨五入しています。

財源用語メモ

●一般会計

市税を主な財源とし、福祉の充実や道路整備など、市の基本的な施策にかかる経理の会計

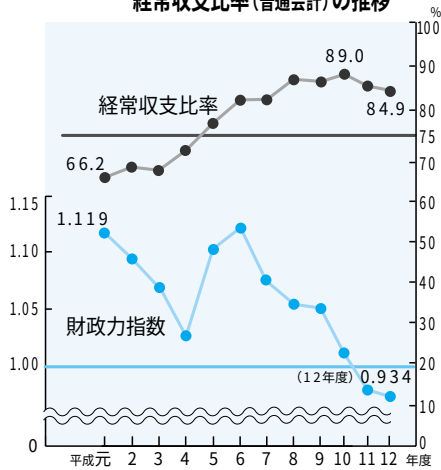
●特別会計

競輪や国民健康保険、公共下水道などの特定の事業で、単独の収支を分かりやすくするために一般会計とは別に経理する会計

●公営企業会計

独立採算が原則で、民間企業と同じように収支のバランスをとりながら経理する会計。本市では水道事業と病院事業があります

**グラフ① 財政力指数(単年度)と
経常収支比率(普通会計)の推移**



財政に体力があるかどうかを測る目安に「財政力指数」があります。財政力指数は、「見込まれる税収入額」を「標準的な水準の行政を行うために必要な一般財源額」で割った値で、「一・〇」を下回ると財源不足として国から普通交付税が交付されます。本市の平成十二年度の財政力指数は、単年度で〇・九三四となり、前年度(指数〇・九四八)から二年連続で体力不足とされる交付団

財政に余力があるかどうかを測る目安に「経常収支比率」があります。経常収支比率は、毎年決まって支払う「義務的経費(人件費、扶助費、公債費など)」に、毎年決まって入ってくる「一般財源(市税、地方譲与税など)」がどの程度使われたかを示す割合で、この割合が低いほど財政に余裕があるとされます。都市では七五%以下が望ましく、八五%以上が危険



基礎体力は？

自ら賄う力が引き続き低下

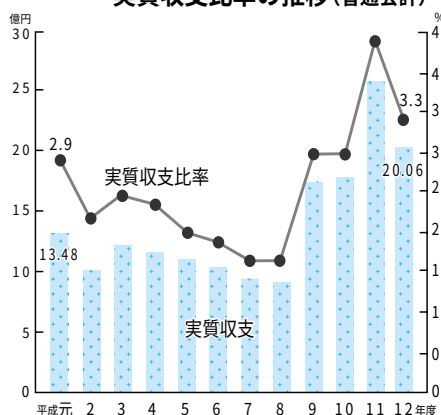
柔軟性は？

余力がほとんどなく、硬直化

頑張った成果は？

財源の有効活用により体力堅持

**グラフ② 実質収支と
実質収支比率の推移(普通会計)**



特集／平成12年度決算

決算を**体力測定**してみる
(普通会計決算)

**基礎体力は不足気味
さらなる体質改善を**

市の財政はどんな状態でしうか。まちづくりや市民サービスを進めていく上での十分な体力はあるでしょうか。平成十二年度決算を基に、財政を見るさまざまな指標を用い、市財政の体力を測定してみました。

とされています。本市の平成十二年度の経常収支比率は八四・九%で、依然として高い水準にあります(グラフ①)。

財源用語メモ

●普通会計

一般会計に土地区画整理、福祉資金貸付、住宅新築資金等貸付および公共用地取得事業の4特別会計を合算したもの。市町村間の比較や財政分析などを行うために用いる

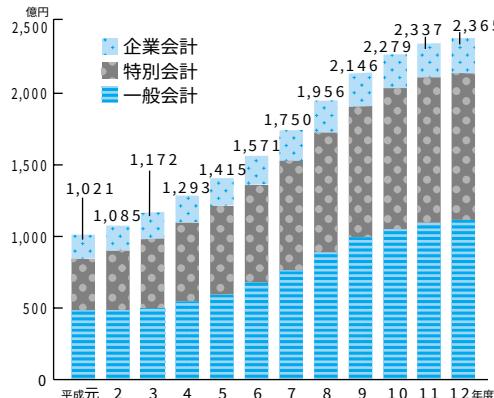
●市債と公債費

市債は、建設事業など、将来の市民にも負担してもらった方が公平な事業の場合に、資金調達のために借り入れるお金。公債費は、市債を返済するために毎年支払う元金と利子の合計

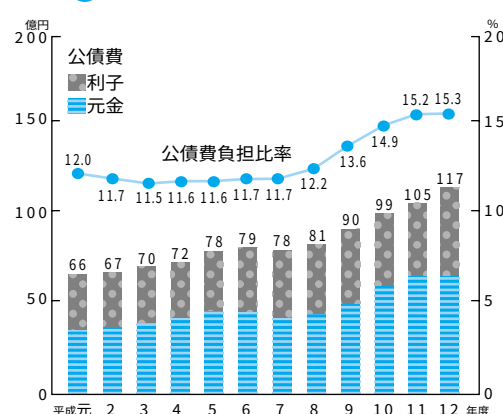
●自主財源

国や県に依存せず、市が自主的に収入できる市税や使用料・手数料などによる財源

グラフ③ 市債の各年度末残高



グラフ④ 公債費と公債費負担比率の推移(普通会計)



ちょっと疲労が蓄積

積み重なる負担、軽減に全力

市債は、市の借金です。平成十二年度末の市債残高は、普通会計で千四百億二千万円、一般、特別、企業の三つの会計を合わせた市全体で二千三百六十四億九千万円となっています。全体では前年度に比べて二十八億一千万円増加しました(グラフ③)。

この借金を毎年返済するのが公債費です。平成十二年度は、前年度に比べて一一・四%増の百三十六億八千万円を返済に充てました。その結果、一

です。本市の平成十二年度の実質収支は、二十億円の黒字となりました。また、限られた財源を最大限有効に活用したかどうかを測る目安に「実質収支比率」があり、通常三%から五%が適正とされます。平成十二年度決算では、この値が三・三%で、適正であると言えます(グラフ②)。

バランス感覚は?

サービスと返済に分散、望まれる均衡

財政運営を中長期的に見る上で、プライマリーバランス(以下PB)があります。「市債以外の収入などの歳入」と「公債費を除いた歳出」との関連を示すもので、PB均衡ならば、市民の負担と享受する行政サービスが等しく、理想の状態であると言えます。バランスが崩れ、「市債以外の収入などの歳入」より「公債費を除いた歳出」が多いPB赤字なら、財源を市債で補い、後世代に借金を送る状態となります。この状態が続けば財政は悪化していきます。逆にPB黒字なら、過去の借金返済のために収入などを充てる状態となります。本市は、平成六年度から平成九年度までPB赤字

五%を超えると要注意とされる「公債費負担比率(公債費に充てられる一般財源の額が一般財源総額に占める割合)」が前年度に比べて〇・一ポイント増の一五・三%となりました(グラフ④)。

エネルギーは十分?

活力の源「税収」は減少

平成十二年度の市税収入は、前年度に比べ、景気の低迷による所得減などで個人市民税が五・二%減、償却資産の減少などにより固定資産税が三・四%減となりました。法人市民税は三・六%増となったものの、市税全体では三・〇%、十五億七千万円の大きな減収になりました。

もっと体力増進を

無駄を省き、活力源の確保に努め、体力アップへ

本市の財政の健康度は、「基礎体力」や「柔軟性」が不足し、借金による「疲労」も蓄積、「エネルギー」の市税収入も減少するなど、厳しい状態です。市では、低下した健康度を取り戻すため、無駄をそぎ落とし、体力の向上に努めています。そのためには、国や県に依存せず、市が自主的に収入できる市税などの「自主財源」の確保に努めなければなりません。平成十二年度の自主財源は前年度に比べ〇・一ポイント減となりましたが、歳入全体に占める自主財源の割合は〇・三ポイント増の六六・五%と、やや改善しました。今後も今まで以上に人件費の抑制や事業の見直しなどを図りながら行政サービスの効率化を進めるなど、行財政改革を積極的に推進します。